

配管設備清掃で安全に レジオネラ症感染を防止しよう！

県生活衛生営業指導センターが衛生管理研修

公益財団法人三重県生活衛生営業指導センター（小林充理事長）は 13 日（金）、津市一身田上津部田の県生涯学習センター視聴覚室で多くの人が使用する入浴施設でのレジオネラ症を防止するための衛生管理研修を開いた。浴場施設のある旅館ホテル、福祉施設、ゴルフ場、公衆浴場などの経営者や従業員ら約 150 人が参加した。県健康福祉部との共催。レジオネラ症は細菌が原因で起こる感染症。これまで入浴施設で感染

した例がたびたび報告されている。症状のタイプは「レジオネラ肺炎」と「ポントティアク熱」の 2 種類があるが、問題になるのはレジオネラ肺炎。高熱や呼吸困難、吐き気、意識障害などが出て、急激に重症になり死亡することもある。幼児や高齢者、他の病気にかかっているなど、抵抗力の弱い人は感染しやすいので注意が必要という。

研修では、公益社団法人全国水利用設備環境衛生協会の岸本明事務局長が「レジオネラ症感染予防のための施設の衛生管理」と題して話した。事務局長は「レジオネ



ラ症防止には専門業者による定期的な循環配管システムの清掃と、事業者による日常衛生管理と定期的な水質検査が重要」とし、日常衛生管理における 5 つのポイント「常に浴槽水は満杯にする」「定期的に換水する」「塩素消毒を適切に行う」「浴槽内、集毛器、ろ過器、循環配管の内部、シャワーヘッド、貯湯槽の内部など設備」とに定期的に清掃・消毒を行う」「定期的に浴槽水の水質検査を実施する」を紹介した。さらに、これらの検査結果を記録して保存するようアドバイスした。

また、浴槽以外にも、冷却塔や給水・給湯設備、加湿器、ウォーターサーバーなどにレジオネラ菌が潜んでいることを指摘。最後に「安全な施設づくりは適切な衛生管理から」と日常管理の重要性を強調した。